

第7章

環境にやさしく、豊かな自然と 共生・調和するまち



第1節 環境にやさしい循環型社会を構築する

1 循環型社会・低炭素社会の構築

現状と課題

大量生産・大量消費・大量廃棄の生活が定着した20世紀は、高度成長期に社会問題となった産業活動に伴う環境汚染や自然破壊等の公害から都市型・生活型の公害へと変化し、さらには、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球規模の環境問題へとその様相を変えてきました。

この問題は、一部の地域にとどまることなく、地球規模の空間的広がりと将来の世代にまでわたる時間的な広がりを持っています。

また、物質的な豊かさや生活の利便性の追求といった私たちの日常生活や事業活動そのものが、その大きな原因となっていることも特徴です。

本市は、南部は鹿児島（錦江）湾を臨む海岸部を有し、中部は市街地と自然環境、歴史文化を有する田園地帯、北部は丘陵地、森林地域から構成されています。これらの美しい自然と良好な生活環境は大切な財産として、後世へ引き継がなければなりません。

しかしながら、都市化や生活様式の多様化に伴って、生活排水等による河川や海の水質悪化、ごみの量の増加や不法投棄、エネルギー使用量の増加など、私たちの日常生活や事業活動から生じる環境への負荷やこれによる悪化が心配されます。

このような中、市内を流れる河川の水質調査を毎年実施し、汚濁負荷解析*によりその状況を注視するとともに、不法投棄や雑草等の繁茂に対し、生活環境へ影響が出ないようパトロールを実施しています。

また、身近な家庭での電気・ガス・水道の使用量や日常の行動をチェックすることで、一人一人が環境にやさしい暮らしを実践することを目的として、環境家計簿の入った生活カレンダーを配布し、啓発に努めています。

ごみの減量化・資源化は、循環型社会を形成していくうえで、特に大切なことであり、合併前から旧3町においては、容器包装に係る分別収集および再商品化の促進に関する法律の趣旨に沿ってそれぞれの収集体制により取り組んできました。

今後、市としての一元化されたごみの分別収集体制により、さらに一般廃棄物の減量化・資源の有効活用に取り組む必要があります。

「環境の世紀」と呼ばれる21世紀は、市民・事業者・行政などすべての者が、それぞれの役割分担をしながら、お互いに協力してかけがえのない環境を守り、さらに、より良いものとして後世に引き継いでいくことが求められています。

第1節 環境にやさしい循環型社会を構築する

ごみ処理状況

(単位：t)

項目	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
一般廃棄物	15,205	15,183	15,041	15,020	15,093
事業系一般廃棄物	4,928	5,244	4,797	4,665	4,621

資料：生活環境課

資源化の状況

(単位：t)

項目		平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
資源物	缶類	174	160	159	154
	びん類	530	552	462	525
	紙類	2,302	1,938	1,788	1,703
	プラ類	511	489	489	460
	蛍光灯	10	7	10	8
	乾電池	22	15	14	13
	小計	3,549	3,161	2,922	2,863
粗大燃 ごみ物	金属	442	392	408	400
	固形燃料化	338	212	326	391
	びん等その他	24	0	17	17
	小計	804	604	751	808
合計		4,353	3,765	3,673	3,671

資料：生活環境課

基本施策の方向性

環境問題に適切に対応するため、市としての取り組み目標となる「環境基本計画」や「地球温暖化防止実行計画」を策定し、施設の省エネルギー化の推進、太陽光や風力、バイオマス*などの新エネルギー*の導入など、地球温暖化、二酸化炭素削減対策に取り組めます。

また、廃棄物の発生抑制や再利用の観点に立ったごみ減量化を促進するとともに、バイオマス資源である林地残材、食品廃棄物、刈り草、^{せんてい}剪定木等の賦存量調査を行い、利活用についての方策を検討し、新産業や雇用の創出、地域内外の人的交流の促進、農林業の振興、維持・存続が危ぶまれる集落の活性化を図ることを目的に、バイオマス資源の利活用を図ります。

合併処理浄化槽*設置補助等による衛生的で効率的な処理施設の整備を進め、循環型社会の形成を図ります。

さらに、豊かな自然の保全を進め、緑や水辺など自然と親しめる空間の形成に努めます。

主要施策の内容

- ごみの減量化、リサイクルによる資源の再利用の推進
- 省エネルギー対策と新エネルギー導入の推進
- 家庭用太陽光発電システムの設置に対する支援の充実
- 低炭素社会*づくりの推進
- 河川の水質浄化、鹿児島（錦江）湾奥の生活排水対策の推進
- バイオマス資源の利活用の促進

『未来のあいら』ゆめコンテスト



【金賞】花咲く始良

蒲生中2年 村岡 春香

第2節 緑豊かな自然と生活環境を守り継承する

1 自然環境の保全

現状と課題

豊かな森林をはじめとする自然は、人間を含むすべての生物にとってかけがえのない財産です。

本市における市民の森林に対するニーズは、地球温暖化の防止、山地災害の防止、水資源の涵養^{かんよう}、景観保全などますます多様化しています。

しかし、木材価格の長期低迷や林業生産コストの増加等により、林業経営の採算性の悪化が進み、さらに、林業従事者の高齢化、労働力の不足等により荒廃した森林が多く見受けられるようになり、このまま放置すると将来の木材生産のみならず、防災や環境の面からも問題が発生することになりかねない状況になっています。

さらに、イノシシ・ニホンジカ・ニホンザル等の鳥獣による森林や特用林産物^{*}への被害は、施業意欲の低下に結び付き、山林や里山の荒廃の一因となっているため、その対策が急がれます。

今後は、山林や里山の荒廃を防止し、豊かな森林の保全と美しい自然環境を貴重な財産として引き継ぎ、さらに環境保全と水資源の涵養^{かんよう}を図るため、広葉樹の森の再生等が望まれています。

山野海岸からなぎさ公園へ続く防風・保健保安林の松林では、松くい虫被害が発生しており、その対策が必要となっています。

一方、住宅周辺の広葉樹林は、市民の憩いの場として森林と触れ合える環境等であり、市民に森林を利用したレクリエーションの場を提供しています。森林愛護思想の高揚を図るため、さえずりの森等の施設整備が今後も必要となっています。

本市には、蘭牟田池県立自然公園として、住吉池およびその周辺地域の蒲生のクス、寺師臥竜梅がある地域が指定されています。

また、平成24年3月に国立公園の拡充再編に伴い、霧島屋久国立公園が霧島・錦江湾地域と屋久島地域でそれぞれ1つの国立公園となり、白銀坂やその周辺に広がるJ Tの森、重富干潟などを含む地域が新たに加えられました。

これを機に県内外から観光客が訪れることが予想されることから、これらの自然保護と自然を活用したエコツアーの開発などが必要となっています。

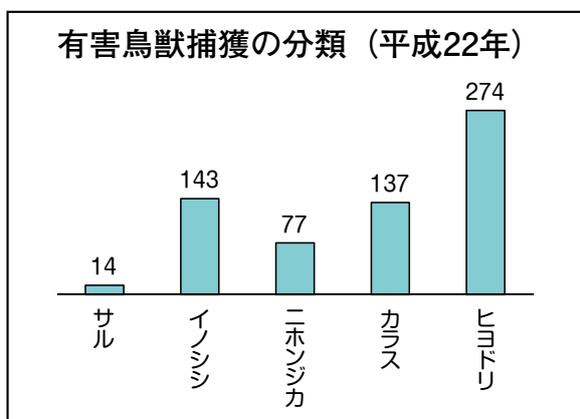
第7章 環境にやさしく、豊かな自然と共生・調和するまち

有害鳥獣の捕獲実績 (単位：頭・羽)

項目	H18	H19	H20	H21	H22
サル	15	20	40	15	14
イノシシ	110	78	106	91	143
ニホンジカ	36	10	39	69	77
タヌキ	4	0	0	0	0
カラス	113	76	129	229	137
ヒヨドリ	0	0	72	14	274

資料：林務水産課

(単位：頭・羽)



資料：林務水産課

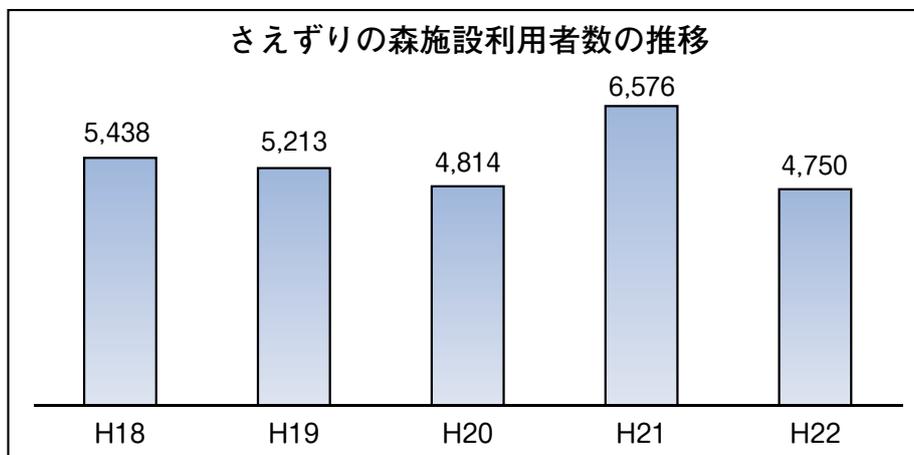
さえずりの森施設利用者数の推移

(単位：人)

項目	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年
利用者数	5,438	5,213	4,814	6,576	4,750

資料：林務水産課

(単位：人)



資料：林務水産課

基本施策の方向性

地域住民の保健・文化・教育的利用に適した生活環境保全、または保健文化機能の維持増進を図るため、緑豊かな自然と生活環境を守ることが必要です。

そのため、森林環境税を活用し、管理不十分な森林や里山地域における公益上重要な森林の整備などの森林環境の保全を図るとともに、市民が森林に触れ合う機会の提供や森林・林業の学習・体験活動への支援等により、市民の森林を守り育てる意識の醸成を図ります。

また、地域住民をはじめ森林ボランティアなどの多様な主体による市民参加の森林づ

第2節 緑豊かな自然と生活環境を守り継承する

くりを推進し、既設のさえずりの森等の林間保養施設やレクリエーション施設等も整備し、憩いの場、自然教育の場として今後も活用していきます。

さらに、有害鳥獣の捕獲や松林における松くい虫被害の防除対策など森林の保護保全対策を推進するとともに、治山施設の計画的な整備を行います。

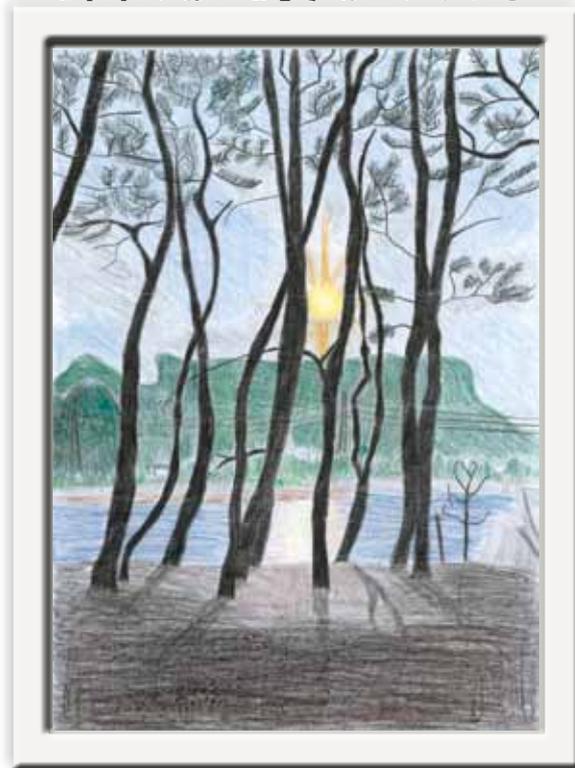
これらの豊かな自然環境を多くの人に体験してもらうため、地域の特性を活かしたツアーのプログラムづくりやインストラクターの養成、さらに本市の持つ歴史的な史跡や産業などを含めた情報発信に努めます。

また、本市の環境保全と水資源の涵養^{かんよう}を図るため、広葉樹の森を再生することで猿害等を防ぐ役目と鹿児島（錦江）湾などの浄化を図ります。

主要施策の内容

- 管理不十分な森林や里山地域における公益上重要な森林整備の推進
- 憩いの場、自然教育の場としてさえずりの森等の施設の管理および整備の推進
- 森林の保護・保全対策の推進
- 治山施設の計画的な整備等の推進
- 有害鳥獣捕獲事業の推進
- 錦江湾エコツーリズム*の拠点整備の推進
- 広葉樹の森の再生による悠久の森の再現の推進

『未来のあいら』ゆめコンテスト



【金賞】 夕方の松林

重富中3年 前迫 直人

2 環境対策の充実

現状と課題

本市では、豊かな自然環境および快適な生活環境の保全を図るため、環境美化条例を制定し、行政・市民・事業者等のそれぞれの責務を定め、空き缶、吸い殻等のポイ捨て、犬猫の排せつふんの放置、ごみの焼却などの禁止行為、ごみ・チラシ等の散乱防止、空き地などの管理、改善勧告・改善命令、事実公表、罰則等について規定しています。

市においては、生活環境の保全を図るため、身近な空き缶、吸い殻等その他のごみの散乱防止や雑草除去等をパトロール、広報による啓発に取り組んでいますが、不法投棄やごみのポイ捨てなどが見受けられるのが現状です。

特に、テレビなど家電4品目は個別法律により再商品化が義務づけられていますが、適正な処分がされず、不法投棄されることが危惧されます。

また、中山間地域においては、道路沿いの山林等への不法投棄防止策として、地域住民により道路の侵入防止用の防護柵などを設置されているところもあり、市民と一体となった不法投棄防止の取り組みが行われています。

今後も、警察等との連携など、不法投棄の監視体制を強化し、行政・市民・事業者が連携をとって環境美化活動に取り組む必要があります。

また、旧始良郡西部衛生処理組合が鹿児島市吉田地区に設置していた吉田清掃センターは、平成21年3月末に稼働停止しており、将来的には適切に解体、撤去の必要があります。

西別府一般廃棄物最終処分場には、現在、本市の不燃物残さを搬入しており、適切に維持管理を行っています。

あいら最終処分場は、埋め立て期間を当初15年間と想定していますが、あいら清掃センターから排出される飛灰の外部委託処理により延命化を図りながら、埋立容量の状況に応じて、新最終処分場の候補地選定・建設など事前準備に取り組むことが必要です。



あいらクリーンセンター

基本施策の方向性

環境美化条例に基づき、豊かな自然および快適な生活環境を保全するために必要な施策を関係行政機関と密接な連携を図りながら、総合的に推進します。

生活環境の改善について市民への啓発に努めるとともに、市民による自主的な環境美化活動に対する支援に努めます。

吉田清掃センターの解体、撤去等については、跡地利用を検討しながら適切に進めていきます。

西別府一般廃棄物最終処分場の閉鎖事業については、関係機関と協議しながら、搬入停止後、速やかに着手できるよう準備を進めていきます。

新最終処分場の整備については、候補地選定等の事前準備等を行いながら、廃棄物行政に支障を来さぬよう計画的に進めていきます。

主要施策の内容

- 環境道德の向上のための啓発活動の推進
- 不法投棄の監視、取締りの強化
- 市民と行政が連携した環境保全対策の推進
- 吉田清掃センターの解体・撤去の適切な実施
- 西別府一般廃棄物最終処分場の閉鎖の円滑な実施

3 環境教育の推進

現状と課題

本市は、山間地から海岸までの緑豊かな自然の中に、住吉池およびその周辺が藺牟田池県立自然公園として指定されており、また、平成24年3月の国立公園の拡充再編に伴う、霧島屋久国立公園の霧島・錦江湾地域と屋久島地域への分割により、それぞれ一つの国立公園となり、白銀坂やその周辺に広がるJ Tの森、重富干潟等を含む地域が新たに加わりました。

近年の自然志向の高まりにより、自然公園などを訪れる人々が増加する傾向にありますが、その反面、利用者のマナーの悪さによる自然荒廃やごみの散乱などの問題が発生しています。

また、生活排水等による水質汚濁や自動車排出ガス等による大気汚染など、生活・事業活動による廃棄物の増大や多様化の問題も心配されます。

本市が、緑豊かな自然と生活環境を守り、継承していくためには、本市に関わるすべての人々があらゆる場面において「環境」を意識し、それぞれの役割に応じて積極的に環境に配慮した行動をとることが重要です。

これまでの大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済活動や生活スタイルを見直し、環境への負荷の少ない循環型社会の実現、人と自然が共生する環境にやさしい社会の実現を目指し、行政・市民・事業者がそれぞれの立場と役割において、自主的・積極的に環境問題に取り組むとともに、家庭、学校、地域においても自ら進んで取り組む必要があります。

そのためには、子どもたちへの環境教育を推進することはもちろん、それ以上に大人一人一人が環境への意識を高め、全市一体となった取り組みを進めていけるような、行動の基礎をつくることが大切になります。

『未来のあいら』ゆめコンテスト



【銀賞】海のきれいな始良市

重富小2年 西小野 颯瑠

第2節 緑豊かな自然と生活環境を守り継承する

錦江湾クリーンアップ作戦参加者の推移 (単位：人)

項目	H20	H21	H22	H23
参加者数	1,577	2,150	550	1,800

※H22は、秋の部のみ実施

資料：企画政策課

環境関連施設への研修受入状況の推移 (単位：人)

項目	H18	H19	H20	H21	H22
あいらクリーンセンター	44	96	31	30	14
最終処分場	219	241	133	332	377
あいら清掃センター	—	—	—	466	606

資料：環境施設課

基本施策の方向性

現在、本市が加入する鹿児島湾奥地域生活排水対策協議会では、錦江湾の干潟や河川の生物の観察会等を開催し、親子を対象とした環境教育を実施しています。

また、市の清掃センター・最終処分場などや資源物の中間処理施設などが、学校単位による環境学習の場とされています。

今後は、関係行政機関や教育機関との連携により、自治会や公民館など社会教育の場への研修機会の提供に努めるとともに、鹿児島（錦江）湾地域の国立公園再編による総合的な環境教育・学習施設の整備についても調査研究していきます。

また、市内を流れている主要河川の水質の状況やごみ排出量の状況など、環境に関する情報提供や情報交流を図りながら、関係団体と連携して学校教育や社会教育などの場における環境教育・環境学習などを進めることにより、環境への意識が高い人づくり、地域づくりを目指します。

主要施策の内容

- 自治会や公民館など社会教育の場への研修機会の提供
- 鹿児島（錦江）湾地域の国立公園再編による総合的な環境教育・学習施設の整備の促進
- 環境に関する情報提供や情報交流の推進
- 関係団体と連携した学校教育や社会教育などの場における環境教育・環境学習の推進